

あらた同窓會

平成30年 春季号

平成30年3月23日発行

鹿児島大学農学部
あらた同窓会

電話 099-285-8537
振替口座 02010-2-876



平成29年度会費納付のお願い

(会計年度；平成29年10月1日から平成30年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで約2万人の卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が100年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くためにも、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の郵便振込用紙をご利用ください。

平成31年春季号(平成31年3月発行)へのご寄稿のお願い

本号本部便り(19ページから)に記載したように、2019(平成31)年は鹿児島高等農林学校創立(第1回入学式)の1909(明治42)年から110年を迎えることになります(20ページをご参照)。それを記念して、「あらた同窓会報平成31年春季号」を「農学部創立110周年記念号」として発行することにいたしました。

つきましては、会員の皆様にご寄稿をお願いすることになりました。皆様、近況、随想などをふるってご寄稿ください。写真も大歓迎です。

ご寄稿は、下記事務局までメールの添付ファイルまたは郵便で、平成30年10月末日までにお送りください。

事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: arataakai@mc2.seikyou.ne.jp

住 所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

目 次

会長挨拶

新しい仲間の皆さん、ようこそ	藤田 晋輔	2
----------------------	-------	---

学部長挨拶

「鹿児島ブランド」の皆さん、きばいやんせ！	岩井 久	3
-----------------------------	------	---

退職される恩師

北の国から南国へ、早くも四半世紀	秋山 邦裕	4
真の「進取に気風にあふれる農学部」を期待して	曾根 晃一	5

講演録

鹿児島県のジャガイモそうか病菌と防除対策	西 八束	6
----------------------------	------	---

支部便り

近畿・兵庫あらた会	藤岡 悦治	7
広島あらた会通信	辻野 聡	7
佐賀あらた会	池田 茂雄	8
熊本あらた会	東 正隆	9
長崎あらた会	寺本 健	10
鹿児島支部	南 蘭 覚	10

クラス会・グループ便り

A32 卒後 60 年記念同窓会に出席して	中島 三夫	11
S42 年入学農学科同期会壱岐・対馬探訪記	川瀬 大三	12
人生の 2 周目を祝しー園芸学科昭和 55 年卒業同窓会記	原 修	13
農業土木・「しらすの会」の報告	中根 俊介	14
岩堀修一先生傘寿祝賀会および 果樹園芸学研究室同窓会を開催	岩田 浩二	15

学生便り

生物生産学科	芥川 蘭	16
生物資源化学科	小山 浩輔	16
生物環境学科	永留 萌	17

恩師のお慶び並びに同窓の訃報		17
----------------------	--	----

本部便り	富永 茂人	19
------------	-------	----

会報賛助金協賛者及び寄付者ご芳名		22
------------------------	--	----

役員名簿		23
------------	--	----

会計報告		23
------------	--	----

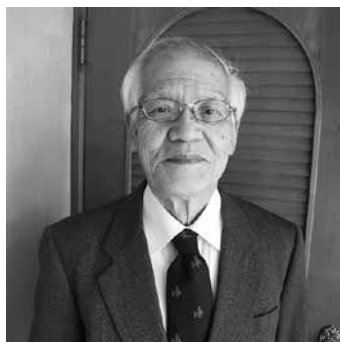
鹿児島大学農学部あらた同窓会会則		26
------------------------	--	----

編集後記	樗木 直也	
------------	-------	--

新しい仲間の皆さん、ようこそ

鹿児島大学農学部あらた同窓会

会 長 藤田 晋輔



今年も鹿児島大学農学部、大学院修士課程を卒業、修了された皆様を新入会員として迎える時候になりました。社会人として県内外の多くの分野に巣立つ“はつらつ”とした皆様の将来の活躍を想像する時、自分のことのように喜びを感じます。

皆さんは、これまで16～18(+ α)年の間、御両親、小、中、高校、そして大学の先生方の庇護・指導のもとに、基礎並びに専門的な学びを習得されました。修学に加えて人間としての日常生活の基本振る舞いである「倫理、道徳」観念〔挨拶、謙虚さ（真摯な態度）、優しさ、時間厳守、傲慢さの排除等〕は、最も大切であると思っています。最近、これらの行為を意識しない・出来ない大人（青・壮年）が非常に多いことに驚きを感じています。ぜひ、これまで学んできたモラルも社会・経済活動等に参加することへの“入門許可免許状”であることを認識し、注視した行動を行えば、皆さんの将来は必ず輝き、満足できるものになるでしょう。

ところで、皆さんが学んできた分野はそれぞれ異なりますが、船出する先の社会は、農林業関係に関係なく幅広い分野が絡みあいながら、猫の目のように変わり、稀に急変することから、総合的判断が必要な場面も多くなりました。社会は“総合的な対応・判断ができる人材”（ここが大切）を求めています。大卒、院卒であると胡坐をかいているわけにはゆきません。わが鹿児島大学農学部は「明治42年開学の“伝統と歴史”ある大学である」と挨拶申し上げています。国内外を問わず、「農学部あらた同窓会」会員には、多くの分野で活躍している20,000名（健在者16,000余名）を超える莫大な人的財産があります。国内外に設立されている各支部総会等に積極的に参加し、同窓生先輩と酒を酌み交わしながら意見交換等ができるのです。これらの有能な先輩が皆さんの長い人生の的確な羅針盤を与えてくれることに間違いありません。皆様は意識無くとも、これらの諸先輩が“伝統と歴史と言うお宝”なのです。例え最終決断が出来なくても、このお宝に相談することが多くの職場で“総合的に判断、活躍できる人材”につながることに間違いありません。

これまでご案内してありますように、鹿児島大学から『鹿児島大学「進取の精神」支援基金』の拠金要請がありました。農学部あらた同窓会では一昨年に続き常任副会長を中心に事務局で検討し、昨年秋の役員会（幹事会、評議員会）および総会に諮り、本年度中に他学部同窓会と同額の300万円を一括拠金（詳細は「本部だより」、及び「平成30年度一般会計収支予算書」参照）で処理いたすことにしました。これらの財源は皆様からの浄財である年会費（2,000円／年）からの運営費節約で捻出対応することにしました。今後とも現会員だけでなく、新入会の皆様にも、引き続き年会費の積極的な納入をお願いします。

最後になりますが、今年度も同窓会活動の主旨に賛同賜り、同窓会活動へ積極的なご参加、協力をいただきながら、「鹿児島大学農学部」、そして「農学部あらた同窓会」の発展のためにご支援賜りますようお願い申し上げます。

（林S37卒）

「鹿児島ブランド」の皆さん、きばいやんせ！



農学部長 岩井 久

この3月23日をもって学位記を授与される卒業生・修了生の皆さん、誠におめでとうございます。まだ寒かった2ヶ月ほど前に卒業論文や修士論文をまとめ、その後本日までの短い時間でしたが、旅行や各種イベントなどを通して友人・後輩と語らい、別れを惜しんだことでしょう。

皆さんはこれまで、大学生という特別な待遇で守られてきましたが、社会へ飛び立つ準備は万端ですか？これから様々な業種において、専門分野の卵として生きていくことになりますが、まずは、昨日を振り返りながら「明日への覚悟」を決めてください。

人生は出会いと別れの連続です。出会いは人生を豊かにし、別れは人間を成長させます。近くにいることが当たり前だった友人、親あるいは恩師の有難みは、遠く離れて気がつきます。今までの出会いも、これからの出会いも、その両方を大切にしてください。また皆さんの中には、授業や実習を通して私と交流した人もいますが、大半の方とは、入学以来一度も話をしないままお別れすることになります。気軽に交わす「また会いましょう」あるいは「そのうち遊びにきます」などという言葉はある意味空しいもの。卒業後同じ市内に住みながら旧友同士が一生会わずに終わることも多いものです。人生とはそれほどまでに短く人間関係は想像以上に淡泊です。しかし、確信を持って言えることが一つあります。それは、皆さんは、全国でも稀有な地方都市に立地する鹿児島大学で学び、そこを巣立ったという共通点を持っているということです。農学部だけを見ても、既に1万5千人以上の卒業生が日本全国に在住しています。皆さんが居を構える赴任地においても意外な機会に鹿児島大卒の人に遭遇するでしょう。もちろん皆さんにとっては、新しい職場などでの人間関係を構築するのが最重要課題です。しかし少し落ち着いたなら、関東・関西・九州などの各地で開催されている年1回の「あらたマインド」の集まり（飲み会）に顔を出してみませんか？それはつまり各地の同窓会支部が開催する「あらた会」です。「あらたマインドの人」は後輩を大事にすること、結束が固いことに関しては他の国立大学法人出身とは比べものになりません。そのような場での先輩・後輩との交流が時には仕事上のプラスとなり、意外にストレス解消のきっかけになったりもします。

最後に、私の経験から確信している三つのマインドを、はなむけの言葉として贈ります。

1. 人生はカードゲームのようなもの。最初の持ち札が少々悪くてもそれらでベストを尽くしてください。そして他人の評価よりも自分自身の評価が大事です。その際には「何になったか」ではなく「何をしたか」に重きを置くこと。
2. 矛盾に耐えて修行をすること。ビジネスの世界に身を置いていると、新しいことを身につける時間は、皆さんが想像するほどは長くない。修行の出発点において多少のことを我慢しないと大成しません。泣き言は少なめに、黙って耐え、できることから始めること。
3. 最初に与えられた仕事をできるだけ継続する。愚直なる継続は誰もが持ち得る武器です。10年続けていると、いつの間にか、その道の第一人者になっている可能性が高い。

皆さん自身が「鹿児島ブランド」です。誇りを持って歩んでいかれんことを願っております。

(農S55卒)

北の国から南国へ、早くも四半世紀

生物生産学科 秋山 邦裕



北の国・北海道で生まれ育ち、大都会・東京での生活を経て、南国・鹿児島にたどり着きました。現在、鹿児島での暮らしは四半世紀になります。妻は台湾出身なので、鹿児島は私達夫婦の生まれ故郷の真ん中に位置しています。飛行機便では、台湾との直行便が飛ぶようになり、札幌への直行便は運休・廃止になりましたので、時間的には北国の方が不便です。退職後には、春夏は北国へ、秋冬は台湾へ、ゆったりと旅をしたいと思い描いています。でも、親戚や友達が鹿児島へ遊びに来ることが、さらに増えそうです。とくに、NHKドラマの「西郷どん」効果で、今年は来客接待で大忙しになりそうです。

40歳を迎える間近になった頃、「日本の北か南の農業の盛んな地域で働きたい」と自己宣伝を行ったところ、故郷の北ではなく、南の鹿児島大学から声がかかってしまいました。まずいことに「旧・薩摩藩」。祖父は福島「旧・会津」の出身。祖父が生きていれば、「どこへ行ってもよいが、薩摩だけはダメ」と言われそうな気がして、多少躊躇しました。たしかに、明治維新に関しては、なぜ、薩摩は江戸でいわば「テロ行為」を繰り返したのだろうか？ また明治新政府は戊辰戦争を会津戦争にまで拡大する必要がどこにあったのだろうか？ 無駄な戦によって、会津白虎隊の若者達が命を落とし、私の祖父母は未開の地の開拓に追いやられることになったのではないだろうか？ そうした私の素朴な疑問はいまだに解消されていません。ただ、幸いにも、両親は道産子だったこともあって、反対などせずに常夏の南国への転勤を喜んでくれました。

鹿児島の農業は、研究フィールドとして、とても魅力的です。畜産、茶業、施設園芸、果樹など多様な経営が展開しており、先進的な法人経営が活躍しています。農協、普及センター、試験場など関係機関の実力もトップクラスです。農業経営者や関係機関、OB、同僚達の支援・援助を受けながら、充実した研究を行えたことに、私は心より感謝したいと思います。研究内容は、農業雇用、法人経営、農業公社、農業普及システム、農村女性起業活動、外国人技能実習制度、農業分野でのICT（情報コミュニケーション技術）活用、など多岐にわたります。フィールドの良さに支えられたおかげで、全国的に影響を与えるような成果を生み出せた、と自己満足しています。教育面では、学生・院生達に多くを教えてもらいました。留学生が増えたこともあって、台湾、中国、韓国、ベトナムなどの農村や大学を訪れる機会を得て、見聞を広めることができました。片言のあいさつ言葉を話せるようになりました。これからも趣味的に勉強を続けようと考えています。

退職後は、自宅周りの耕作放棄地を借りて、「自産自消」を実践しようと思い描いています。すでに準備体的に野菜作りなどを行っています。でも、毎年、収穫しきれずに野菜の花々を咲かせて鑑賞している状態です。これでは農学部で教育研究に携わっていた者の名折れです。これからは野菜、花々、果樹などを手広く真面目に栽培する計画です。また、福祉館が近いので、地域囲碁サークルを立ち上げる予定です。最近、世界中でAI囲碁が話題になりました。グーグルが開発したアルファ碁が世界中のトップ・プロを倒してしまったのです。日本で開発したDeep Zen Go（天頂の囲碁）のソフトが昨年11月に発売されました。私も買い求めて対戦しています。AIソフトはモンテカルロ法、ディープラーニングなどを採用してから格段に強くなりました。でも、恐怖心、怒り、欲などの感情が全くなく、勝率の高い手を淡々と打ち続け、疲れることもありませんので、面白味に欠けます。囲碁好きと世間話をして泣き笑いしながら、楽しむ場を設けようと計画しています。鹿大囲碁部も参加予定ですので、いまから楽しみにしています。

真の「進取に気風にあふれる農学部」を期待して



農業環境科学科 曾根 晃一

速いもので、鹿児島大学に赴任して24年が経とうとしています。私の研究生生活の半分以上を鹿児島大学で過ごしてきたことになります。こちらに赴任してきたとき、鹿大の学生は妙におとなしく、従順であると感じました。院生の時、教官を「さん」付けて呼び、さまざまなことを比較的自由に議論していたので、適度な緊張感を持って、学生と活発に学問や社会のことについて議論できることを期待していた私にとって、これは少々期待外れでした。

また、農学部のおおらかさや横並び主義、先例主義も感じました。会議でよく出るのは、「まず、他の大学の例を調べてから…」、そして懸案事項が出て、なかなか結論が出ないときに「今回だけは、これまで通り…」と言うフレーズです。何かを決めるとき、先例や他の例を調べることが全て悪いとはいませんが、自分たちは何をしたいのか、これをまず決めた上でこれらの例を参考にしなければ、自らの独自性を発揮できなくなる（発揮しなくなる）し、社会の変化に対応した迅速な意思決定ができなくなります。

私が鹿大にきてから大きな改組が2回ありました。1回目は教養部の解体に伴うもので、2回目は獣医学科と山口大学の共同獣医学部創設に伴うものです。その後、学科の再編に伴う学部内の教員の学科間移動とともに水産学部と連携した教育プログラム「国際食料資源学コース」が新設されました。しかし、私の見るところ、私が赴任する前の第1回目の改組を含め、農学部が自ら望んだ改組ではなかった。農学の研究は長時間を要するものが多いので、学部の中に妙にぎすぎすした雰囲気は感じません。それが農学部のいい点なのですが、それが影響してか、改組のイニシアティブを取れなかったのが極めて残念です。それは、農学部が社会の変化に即応し、どのような人材を欲し、どのような教育を学生に施し、社会に供給するのか、いわゆる3ポリシーが明確でなかったからではないかと考えています。

現在、本学の方針に一本筋が通っているとは思えない状況です。これは、農学部にとってチャンス以外の何ものでもありません。農学部の特徴ある方針を明確化することで、存在意義を示すことが出来るからです。そのための一つの方法として、教授会を今のような決定事項の伝達の会議から、農学部の現状と将来についてもっと自由に議論できる場に変えることも考えられます。そのためのたたき台を、各学科や講座の代表ではなく、全体を見据えた議論ができるメンバーをそろえた企画委員会で作成するというのも有りかなと思います。

近年の大学を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、基本的には研究室はなくなり、教員は各教育分野に所属することになりました。しかし、まだ以前の研究室制の感覚でいる教員も見受けられます。研究を重視したかつての研究室制の考えを捨て、自分は各教育コースの理念に基づいてどう教育に参画するべきかを考えざるを得なくなっていると思います。農学部のFD活動は、学内で高く評価され、その結果農学部の教育は確実に充実し、教員の実力も高まっています。教員の皆様は、もっと自信を持って良いと思います。私が赴任以来農学部感じてきたおおらかさ、横並び主義、先例主義をぼちぼち脱ぎ捨てて、文部科学省や大学本部とは、関ヶ原の戦い後や明治維新の際薩摩が徳川幕府との交渉の中でみせたしたたかさをもって、「新たな100年」を目指した特徴ある教育を掲げて、真に「進取の精神にあふれる農学部」に向かって邁進されることを切に願っています。それが農学部の「新たな100年」につながるものと確信しています。

講演録

鹿児島県のジャガイモそうか病菌と防除対策

農学科H.元卒 西 八束
(鹿児島県農業開発総合センター)

そうか病はジャガイモや根菜類などの品質や市場価値に大きな影響を及ぼす重要な病害である。本研究では、本邦で主要なジャガイモ産地の一つである鹿児島県と長崎県におけるジャガイモにそうか病を引き起こす *Streptomyces* 種について調査した。分離株は16S-23S rRNA間に存在するスペーサー領域の塩基配列に基づくそうか病菌種の特異プライマーによるPCRで、3種に分類した。鹿児島県から分離されたそうか病分離株の42%が *S. scabiei* で、52%が *S. turgidiscabies* となった。一方、長崎県の分離菌株の83%は *S. scabiei* となった。ジャガイモから分離されたすべての病原性のある分離株は *S. scabiei*, *S. turgidiscabies* および *S. acidiscabies* の3種に分類され、サクストミン生合成遺伝子を保有していた。また、長崎県と佐賀県から分離された *S. acidiscabies* は *pathogenicity island* 中の2つの遺伝子 (*tomA* と *necl*) を欠いていた。病原性のある *S. scabiei* は16S-23S rRNA間に存在するスペーサー領域 (ITS) の塩基配列により、2つの遺伝子型 (TタイプとJKタイプ) に分類された。いくつかの分離株は両タイプの遺伝子を保有した (Bタイプ)。

病原性 *Streptomyces* は種により特性が異なり、特にpH耐性はそうか病の防除のために重要である。そこで、*S. scabiei* と *S. turgidiscabies* を特異的に区別するため、16S-23S rRNA ITSを標的としたSYBR Green定量PCR用のプライマーを開発した結果、*S. scabiei* と *S. turgidiscabies* が混在した植物組織や土壌でも影響なく定量可能であった。加えて、異なる土壌 pH (植付時; 4.4~5.2) で本定量PCR法を用い、これらの菌種の動態を調査した。ジャガイモはハウス内の無底ポットで栽培し、*S. scabiei* と *S. turgidiscabies* を単独あるいは混合して接種した。*S. turgidiscabies* は *S. scabiei* より低いpHで耐性であり、pH4.7以上でより生育した。*S. turgidiscabies* と *S. scabiei* を混合した区では、土壌、根および病斑部のすべてにおいて *S. turgidiscabies* が優先していた。

種いも消毒は本病の伝染を予防するための重要な防除技術である。そこで、主要な種いも消毒剤の効果を評価するため、定量PCRを用い病原性 *Streptomyces* の動態を調査した結果、効果的な種いも

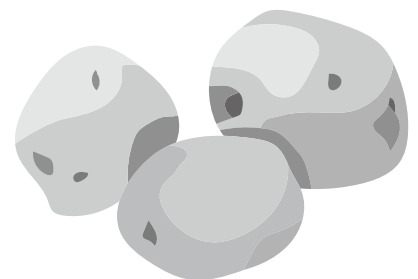
も消毒剤処理は、種いもおよびその周辺のそうか病菌密度を長期に抑制していた。また、物理的防除法の一つである種いもの温湯処理は、温湯消毒単独では防除効果が非常に低いが、温湯処理後に微生物製剤を処理することで著しく防除効果が向上することが判明した。

そうか病の土壌消毒法として、太陽熱消毒などについて、効果的な使用法を明らかにした。さらに、太陽熱消毒と植え付け前の米ぬかの施用もしくは抵抗性品種と肥料を組み合わせることで、効果の高い総合的な防除法を構築した。

謝 辞

発表の機会を頂いた鹿児島大学名誉教授 藤田晋輔会長ならびに鹿児島大学名誉教授 富永茂人常任副会長を始めとする鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局の方々に感謝申し上げます。

なお、本稿の内容は、鹿児島大学学位審査論文の内容の一部である。ご指導を賜った鹿児島大学農学部長 岩井久博士、佐賀大学農学部教授 大島一里博士、鹿児島大学教授 津田勝男博士、同准教授 中村正幸博士ならびに佐賀大学准教授 草場基章博士に心から感謝申し上げます。



支 部 便 り

近畿・兵庫あらた会だより

平成29年度近畿・兵庫合同総会の概要

平成29年度の通常総会は、5月27日（土）13時からJ R尼崎駅北側のホテル「ホップインアミニング」で6年連続して合同総会となりました。

本年度の総会には、本部の常任幹事（庶務担当）で鹿児島大学研究支援センター遺伝子実験施設の田浦 悟教授（農59）にご臨席をいただいた他、神戸市須磨区在住の迫田 太氏（化29）が55年ぶりに、鹿児島県肝付町在住の飯田駿一郎氏（獣39）が15年ぶりに出席されるなど総勢24名で和やかに行われました。

はじめに、近畿あらた会の内田 昭会長（獣25）が今年も体調不良で欠席されたため、最高齢の竹内正郎氏（獣25）から、突然の指名で戸惑ったが çık けて来ることが自分の為になると思って出席しているので懇談を楽しもうと挨拶されました。

続いて兵庫あらた会の日高康貴会長（獣37）が、会員の高齢化や若い参加者も少なく沈滞ムードであるが交流・懇親を図って、お互いに連携して同窓会を盛り上げていくとともに鹿児島大学同窓会連合会

関西支部設立にも協力していきたいと挨拶をされました。

次に、田浦教授から母校の動き並びに同窓会本部の近況報告をいただきました。

記念撮影の後、13時30分には渡邊幸博氏（獣27）の乾杯の音頭で祝宴に入り、ビールや近畿あらた会の藤岡悦治常任幹事（農46）が準備された焼酎「赤霧島」などを酌み交わして歓談し、14時から日高会長を皮切りに出席者全員が旅行、闘病体験、健康管理法、趣味、家事・介護、ボランティア活動など近況をマイク片手に語りました。

最後に渡邊氏の発声で「対岳寮第二寮歌」に続き田代善和氏（畜46）の巻頭言で「北辰斜めに」と高等農林校歌を合唱し、最年少の瀬戸口恒夫氏（生環H7）の1本締めで16時に祝宴を閉じました。

その後、田浦教授を含め12名が会場に隣接するビル内の居酒屋に移動して18時頃まで2次会を楽しみました。

なお、来年は5月27日（日）、同会場で合同総会を開催の予定ですので、多数の出席をお願いする次第です。

〔近畿あらた会・幹事 藤岡悦治（農S46卒）〕



広島あらた会通信 第1号

諸般の事情により広島あらた会総会へのご出席がかなわなかった皆様に対し、このたび「広島あらた会通信」なるものを発信することにしました。

総会の様子や参加者の近況等をお伝えしたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします（年一回、総会開催後に発行の予定です）。

今年の総会は去る10月13日（金）18時から、「むすびのむさし土橋店」にて開催しました。年々減少する参加者数の増を期待し、今年は平日夕刻の開催としてみましたが結局11名のみの参集となりました。それでも、常日頃顔を合わす機会のない面々だけあって、様々な話に花が咲き、時間も忘れて互いに杯を交わしながら談笑する楽しいひと時を過ごすことができました。

昨年の総会においては、平成21年に鹿児島へ帰郷された本田親聖さん（林40）が久しぶりのご参加というサプライズ（広島でのクラス会に合わせての帰広だったそうです）がありましたが、今年は、実に7年ぶりに伊藤珠子さん（獣医25）がご参加され、男ばかりの席が華やいだことでした。当日クラス会等で欠席された桑原武男さん（林33）、田丸猛さん（蚕39、広島あらた会副会長）がこのことを事前にご存知であれば、さぞ残念がったことだろうと思いました（笑）。

ところで、なぜ最近の会場は「むさし」なのか?! この点について少しご説明をいたします。広島の有名店であることはご存知のことと思いますが、実は「むさし」は、平野朝彦さん（林38、広島あらた会会長）が総務部長を務められた平成元年開催の「海島博」において多大なるご協力をいただいた社であることに加え、馬場孝三さん（林52）が「むさし」の社長と古くからのお知り合いであるうえ、教え子も「むさし」に就職し働いている、という縁で、平成26年からお世話になっている次第です。人気店だけに予約を取るのがなかなか大変で、またいつも他のお客様も大勢おられるため、かつてのように校歌を大声で歌うことは叶いませんが、いつも美味しい料理をご提供いただいております、総会開催の楽しみの一つとなっています。

さて、話を総会に戻します。昨年は、総会開催に先立ち、案内状の返信を取りまとめる中で永らくお目見えのない方や音信のない方々の所在・意向を確認したところ、多数の方が既に亡くなれていることが判明し、たいへん驚いたものでしたが、幸い今回はそういった訃報もなく安堵し、総会の日を迎えることが出来ました。

今回のトピックとしては、前述しましたが、何と言っても伊藤珠子さん（獣医25）の久しぶりのご参加でした。既に永年会員となられているのでご年齢

はご想像にお任せしますが、声に張りもあり、下の写真のとおり見た目もまだお若く、この3月に心臓にペースメーカーをつけられたとは、お話しになるまで全くわからないくらいお元気そうでした。

『最後のお別れ（を言い）にと思って来た』とおっしゃっていましたが、来年もお会いできるものと期待しております。

その他の会員の方も、牧正流さん（林35）は4～5年前からスポーツクラブに通われていたり、津野瀬武久さん（林42）は未だに心拍数が35回/分で、湯崎知事といっしょに自転車を漕ぐこともあると健在ぶりを自慢されていたり、姫城賢一さん（林41）は『元気の元は酒とボランティアだ』と豪語されていたり、平野さん（林38）は『会長を辞したい』と弱音を漏らしていましたが、それでも皆さん、お元気にお集まりいただき、お話しもでき、嬉しい限りの夜の宴でした。

さて、「広島あらた会通信第1号」はいかがでしたでしょうか? 最後までお読みいただき、ありがとうございます。皆様とも、またお会いできれば幸いです。

〔広島あらた会・幹事 辻野 聡（林H2卒）〕



佐賀あらた会だより

平成29年度佐賀あらた会総会・懇親会が平成29年7月15日（土）、佐賀市の「グランデはがくれ」で開催されました。

本年度は、あらた同窓会本部の田浦悟先生にご臨席いただき、今年もますます元気な大先輩から今回初めての出席となる平成29年卒業生まで26名の参加がありました。

総会では、この1年間にご逝去された3名の先輩

方に哀悼の黙祷を捧げ、喜寿を迎えられた2名の先輩方への記念品贈呈の紹介の後、平成28年度の活動実績及び決算、平成29年度の活動計画及び予算（案）について審議が行われ、異議なく承認されました。

議事終了後は、田浦先生から母校の詳しい近況などを楽しく説明していただきました。佐賀あらた会総会では、毎年、あらた同窓会本部からご臨席いただいております、お越しいただいた先生の話のうかがうことで、その度に、在学中のいろんなことを思い出

したり、その後の状況に驚いたり、母校のことを懐かしく感じられているところです。

懇親会では、「アさて、アさて、・・・」という掛け声と軽快なリズムで、吉岡邦彦先輩（農S35卒）が南京玉すだれをご披露されるなど、例年以上の盛り上がりを見せ、あっという間に時間が過ぎました。

恒例の「鹿児島高等農林学校校歌」「第一寮歌“黒潮岸に”」の参加者全員の合唱も行い、ますますの同窓会の発展を祈念して会を閉じました。

来年度（平成30年度）の佐賀あらた会総会・懇親会は、今年度より期日を早めて5月か6月に開催することを検討しているところですが、来年度も多数の出席者の参加で、盛り上げていきたいと考えています。

〔佐賀あらた会・幹事長 池田茂雄（生環H6卒）〕



熊本あらた会支部総会報告

恒例で開催している熊本あらた会の平成29年度総会を実施しましたので報告いたします。

平成29年11月10日午後7時からアークホテル（熊本市中央区城東町）で実施しました。鹿児島大学同窓会本部からは清水圭一先生に参加していただき学校の現在の様子や今後の大学の変化など丁寧にお話しいただき、獣医科など大きく変化してきた様子をお聞きました。参加者はほぼ40名程度でしたが、盛会に進行し、最後は「北辰斜に」「高等農林校歌」緑したたる南洋の・・・を高らかに唄い閉会しました。

総会では大きな変化はありませんが、会費納入が100名程度ですので、総会の運営が厳しいのですが、数年前から導入した終身会費制度が会の運営に役立っています。終身会費制度は、60歳で現役を引退したならば、1万円納入すれば終身会員となり会費納入が免除されると云うシステムです。懇親会費さえ納めればいつでも総会に参加していただけるという特権を頂くことになります。終身会費は普段特別会計で貯蓄していますが、総会運営上必要な時に一般会計に受け入れることができるので大変便利になりました。定年者が多い時に納入していただければ、将来の若い世代の方々の負担も軽減されるのではないかと考えています。

総会は、何時も同じような顔触れの方々が多いような気がします、今年までの幹事は林学科が担当し、来年30年度からは農学科が2年間担当しますので、幹事が変わるにより参加者も少し変化しま

すのでマンネリ化という状況ばかりではありません。あの人は元気になっているかと思いながら1年ぶりの再会を心弾ませ待っている所もあります。

もみほ
糶干して そぞろ心で あらた会

いそじ
五十つなぐよ 同窓の顔

こんな気持ちで同窓会が半世紀以上続いているのですから、今後も永く同窓の会話を続けたいものだと思います。

〔熊本あらた会・会長 東 正隆（総S38卒）〕



長崎あらた会平成29年度例会

平成30年1月27日、諫早市において長崎あらた会平成29年度例会が開催されました。あらた同窓会本部からは富永茂人先生にご臨席いただき、昭和29年卒業の大先輩から平成29年卒業のピッカピカの新人君まで総勢27名の方々の参加の下、総会、特別講演会、情報交換会が行われました。

総会では、本会会長の山下勝郎氏（昭和44年卒、農学科）のご挨拶後、事務局の織田拓氏（平成2年卒、農学科）から本年度会務・経理報告並びに次年度計画について報告、説明があり、異議なく承認されました。なお、役員改選で次期会長として川瀬大三氏（昭和46年卒、農学科）が承認されました。

特別講演会では、富永先生に「鹿児島大学農学部 の歴史と近況」についてご講演をいただきました。昔の写真、懐かしい写真、そして現在の写真を交え、鹿児島大学農学部 の歴史と近況、来年度以降の機構改革等大変興味深い内容のご講演で、参加者全員熱心に聞き入っておりました。

情報交換会は、堤誠氏（昭和29年卒、総合農学科）の乾杯のご発声をいただき、始まりました。会が和やかに、賑やかに盛り上がる中、途中では今回初参加あるは久しぶりの参加の坂口憲隆氏（昭和51

年卒、園芸学科）、川本雄太氏（平成19年卒、獣医学科）、杉山直樹氏（平成26年卒、生物生産学科）、山添俊明氏（平成27年卒、生物生産学科）、坂口龍之介氏（平成29年卒、生物生産学科）から自己紹介をいただき、さらに毎年参加されている園田真一郎氏（平成27年卒、生物生産学専攻）に自己紹介のご指名の声がかかり、さらに盛り上がりました。時間があっという間に流れ、最後は次期会長の川瀬氏の音頭で巻頭言、校歌、寮歌を参加者全員で声高らかに合唱し、閉会となりました。

〔長崎あらた会・事務局長代理：寺本 健（農S59卒）〕



鹿児島支部だより

鹿児島支部の総会は、平成26年度総会で毎年10月の第3金曜日と決まったことから、平成29年度は10月20日に開催しました。

総会に先だって開催されるボウリング大会は、平成18年度からの恒例行事となっており、今年も9つの職域から41名に参加をいただき開催し、男女別の個人対抗戦のほか、14レーンに分かれてのチーム対抗戦で競いました。同窓の仲間でのボウリングは、和気藹々な中にも熱のこもったものとなります。ストライクやスペアをとるたびにハイタッチする光景がみられ、参加者に笑みがこぼれ、歓声がこだまします。約1時間ボウリングを楽しんだ後は、ほとんどの方に総会会場に移動いただきました。

今年の総会会場は、ボウリング場に近いホテルパレスイン鹿児島にしました。これまでボウリング会場と総会会場が離れており、毎年総会の開始が遅れるのが幹事の悩みになっていたからです。総会には9つの職域から45名、上は昭和44年卒から下は平成29年卒までと年齢も幅広く参加いただき、盛大に開

催することができました。移動時間が少なくなったため定時に開会できた総会は、まず、佐野岩男支部長（農学，昭和49年卒）のあいさつに始まり、本部からお越しいただいた富永茂人常任副会長から来賓のごあいさつをいただきました。議事は支部長を座長として、①平成28年度事業実績及び収支決算、②平成29年度事業計画及び収支予算案の2つの議案を提案。審議の結果、原案どおり承認いただきました。

総会の後の懇親会は、鹿児島大学の岩井農学部長からご挨拶をいただき、出席者の中で最も年配の松本秀一さん（農学，昭和44年卒）の乾杯の音頭で始まりました。自由席の会場はいろんな職域からいろんな年代が交流します。円卓を囲み、明るい声が飛び交う楽しい雰囲気の中で、初めて知の人との交流や、旧友をあたためることができました。途中、ボウリング大会の結果発表を行うと、そのたびに歓声があがります。ボウリングの話など、さらに話しがはずみます。最後は、職域対抗優勝チームで個人優勝した環境林務部の濱田肇次さん（生物環境，平成20年卒）から懇親会を締めてもらい、楽しい1日が終わりました。

鹿児島支部は、鹿児島市郡の機関・団体の支部からなり、昭和28年9月に設立した歴史ある支部で、規模も現在11の職域で構成され、会員数も417人とあらた同窓会最大の支部です。今後も、あらた同窓会の最大の支部としての自負をもちながら、多数の方が参加して交流が深まり、あらた同窓会がますます発展するよう活動を展開していこうと思っております。

〔鹿児島支部・常任幹事 南蘭 覚（農S56卒）〕

平成29年度あらた同窓会鹿児島支部ボウリング大会結果			
区 分	場 勝	準優勝	第3位
チーム対抗戦	環境林務部チーム	農政部チーム	共済連・鹿児島振興局連合チーム
個人対抗戦	濱田 聖次<環境林務部> (生物環境, 平成20年卒)	末吉 忠寿<農政部> (生物生産, 平成8年卒)	川畑 真司<環境林務部> (林, 平成6年卒)
個人対抗戦 (女性の部)	松山 知美<鹿児島市> (生物資源科学, 平成26年卒)	上村 由梨<鹿児島市> (生物生産, 平成25年卒)	内間 久美子<鹿児島市> (院生物生産, 平成27年卒)



クラス会・グループ便り

A32卒後60年記念同窓会に出席して

昨年11月22日、世話役の有園 勉・松澤宜生・古市吉男三兄を中心に鹿児島県内在住者の連携よろしく、卒後60年同級会を感激・感謝の裏に終え、その余韻を噛みしめています。卒業生36名、生存者22名、うち13名が茨城・三重からも参加。瞬時に往時に立ち返り、旧套を温めました。

入学の日の初対面に雄々しく、時代の覚悟を迫った建学の父の像は、台石に機銃掃射四発の弾痕痛々しく、背負う十字架の重さを覚えました。あれから60年なのに、校父のお諭に対して、幾ばくのお答えができるのか、甚だ心寂しく思うばかりです。像の脇に調和よく影差していたフェニックスは、背丈伸びて往時の三倍を超え、経る星霜を物語り、校父はなおも農業技術の亜熱帯・熱帯圏への南進を一段と強く諭し、白髪の友も又「今こそ」と熱く説くありて、頼もし。

今や樹齢百年を超す植物園の木々、当時からシロアリモドキを始め、思いがけない南方系昆虫の住家となつて、得難い環境であったが、茲での樹種と植生は60年の年月を加えて、類ない高度の人工植生を形成し、その中の玉利池に寄り沿って佇む同窓会館

の周辺は、秋雨に散った楓の紅葉に華やいでいた。卒業前年でしたか、日本昆虫学会に参集した中央の著名な昆虫学者と、地元薩摩の昆虫同好会員の懇親会の会場でもありました。胸に結核腫を抱き、山下幸彦先輩に救われて、応動昆に席を置き、後に甌島の環境調査を担当できたのも、契機は此处に繋がっていて懐かしく、昼食を摂り、予期せぬ追憶もまた、有り難いものでした。

その後、一同で前田芳實学長を表敬訪問し、大学の近況と研究方向等を拝聴したことや、午前中岩井久農学部長を共通棟屋上に囲み、桜島に抱かれて記念写真を撮ったのも印象深い。

懇談会の冒頭に伺ったあらた同窓会の富永茂人常任副会長のご挨拶を思い出すにつけ、日頃から同窓会の発展にあまり協力してこなかった自分を反省しながらも、喜びは母校に繋がってこそと、身をもって感じ、我らも校父の像と門の蘇鉄を囲んで立つてこそと思った。鹿児島大学農学部に榮あれ！

〔大分県日田市 中島三夫（農S32卒）〕



前田芳實学長を表敬訪問

前列左より前田昭一（北九州市）、豊富康弘（松阪市）、前田芳實学長、中島三夫（日田市）、杉田 旭（宮崎市）、後列左より築島敬一（鹿児島市）、有園勉（霧島市）、石畑清武（指宿市）、藤瀬正八（鹿児島市）、大迫尚道（鹿児島市）、松澤宜生（鹿児島市）、古市吉男（鹿児島市）、中園和年（かすみがうら市）、福山正雄（鹿児島市）

S42年入学農学科同期会壱岐・対馬探訪記

卒業翌年のS47年、同期2名の偶然の来鹿に伴い自然発生的に第1回目が催されて以来、今回で14回目の同期会となった。S49年福岡県能古島開催からは出身地持ち回りで開催。参加者は会員12人中、例年8～10人程度。

昨年は兵庫在住の藤岡氏の幹事で熊野、南紀・白浜3泊4日で計画するも、台風に祟られ、初日を削り9月6日からの2泊3日の開催となった。

本年は9月19日からの3泊4日で計画。昨年に続き台風のため開催が危ぶまれたが、1日早く通過し事なきを得た。

【初日】その昔、魏志倭人伝に「…カンカイ（対馬海峡）を渡り一大国に至る。…中略…方三百里ばかり、竹林、叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり。田を耕すもなお食するに足らず、また南北に市テキ（交易）す。」と著された壱岐。

その壱岐に向け、博多港から高速船“ヴィーナス号”に乗船。芦辺港に至る。文永の役史跡「千人塚」を巡り勝本港着。辰の島遊覧の切符売り場のお嬢さん、福岡からの娘さんたちと談笑しながらクルーザーに乗船。「エメラルドブルーの海」、「大屏風岩」、「マンモス岩」等々平坦な壱岐島では考えられない景色と荒波、卓越した船長の操船術と名ガイドに感激しつつクルージングを終えた。

名勝「猿岩」を巡り壱岐唯一の自然湧出の湯ノ本温泉壱岐島荘に投宿。温泉浴の後“グルメ宿漁火コース”の海鮮料理に舌鼓。持参の「薩摩芋焼酎」、「壱岐麦焼酎」を堪能し、学生時代や過去の同期会の話題で盛り上がった。

【2日目】宿所での記念撮影の後、山茶花に屯するイラガ幼虫を発見。フロントに通報、殺虫スプレーで“防除”。続いて、スタッフを対象にイラガの“発消長”“被害”“防除法”等々丁寧な害虫学講座が開講された。

宿スタッフに見送られ「壱岐風土記の丘」着。此処は平戸藩主への結束反抗防止のための“散居施策”の構成形態を再現した施設。背戸山、オモヤ、インキョ、ウシノマヤ、シットウダタミ、ミャーラ戸、ハンドガメ…小さい頃使っていた、あるいは聞いた言葉が懐かしい同窓の方もおられることでしょう。

続いて、掛木、鬼の窟古墳を見学。この小さな島に3～7世紀にかけて造営され、現在長崎県の古墳の6割程度256基が残っているとのこと。当時の壱岐の経済力、支配層の権力、中央政権との強固な結びつきが偲ばれる。

次に、WTO地理的表示制度に基づき“壱岐焼酎”として産地指定を受けた焼酎蔵元を訪問、試飲。“2千年の夢”他を求めその夜の飲用に供した。

弥生時代の我が国の“クニ”の中で唯一首都として特定される「原ノ辻遺跡」を巡り、「壱岐国博物館」へ。ボランティアガイド氏の名調子に感動。鹿大OBとのことで知識を再整理し詳しく説明して頂いたとのこと。大感激。！

20年前、筆者の壱岐赴任中に建設された“ビューホテル壱岐”に到着。オーシャンビューの7階大浴場に入浴の後2夜目の宴会。“壱岐の海鮮どっさりコース”活鮑の陶板焼き他地元水揚げの魚料理を堪能。美人女将からのご挨拶と活ウニの追加サービスを受け、この上ない“幸せ”を感じつつ会食。恒例の「七高寮歌：北辰斜めに」「鹿児島高等農林学校校歌」「対岳寮第1寮歌」「同第2寮歌」、初参加の大塚氏口伝の学生時代の愛唱歌「面倒、見たよ～」を合唱。宴会場を退出後、今宵も大部屋で四方山話となった。

【3日目】美人女将、スタッフ総出のお見送りを頂き、壱岐最高峰・標高213mの「岳の辻」で壱岐島を全貌。白砂青松の錦浜、筒城浜を巡って壱岐島を離れ、対馬厳原港着。白村江の敗戦に因り築かれた朝鮮式山城「金田の城跡」を目指す。県道から林道に分け入り15分間の徐行、金田の城登山口駐車場着。ここから本丸（山頂）まで所用徒歩50分。“古希”

を目前に全員が登頂を果たした。

日露戦争に備え浅茅湾東端の陸峡を開削した万関運河を巡り“宿坊対馬西山寺”着。この寺は、朝鮮との外交を担った対馬藩の外交機関・施設＝以酊庵跡。こじんまりではあるが趣深い植え込み、坪庭、敷石、鐘楼、門構え、玄関アプローチなど庭園鑑賞が趣味の筆者にはこの上なく居心地の良い宿であった。翌早朝5時45分からは座禅修行の予定であったが、不覚にも全員暁を覚えず、その機を失ってしまった。

【4日目】対馬藩宗氏10万石の旧金石城庭園、菩提寺万松院、日本3大墓所宗家墓地を散策（というより登山）。続いて、日本人初の海外ジャーナリストで樋口一葉女史の永遠の想い人、対馬出身の半井桃水記念館。広島から嫁いでこられたボランティアガイドさんに授けられた対馬の偉人、歴史、文化感を心に刻みながら、博多港に向け、件の“ヴィーナス号”に乗船。JRの予約時刻が迫っていたため、来年の開催地鹿児島での全員参加を約し、博多港で流れ解散となった。

この4日間を通じ、知識・熱意・話術巧みなボランティアガイドさん、ホテル、交通関係者、道案内の島民の皆様に丁寧な応対をして頂いたことに心から感謝申し上げ、拙い探訪記を閉じさせていただきます。

〔H29年幹事 川瀬大三（農S46卒）〕



後列左から 藤岡（兵庫）、成清（福岡）、森藤（福岡）、松本（鹿児島）、松元（鹿児島）
前列左から 川瀬（長崎）、南（鹿児島）、上原（鹿児島）、大塚（福岡）

人生の2周目を祝し… 園芸学科昭和55年卒業同窓会記

平成という時代があと1年余りで終わることになった今、“昭和”という時代は既然大昔のような感覚を持ちますが、その昭和55年の3月に私たちは園芸学科（当時）を卒業し、“青白い頬”のままで母校を後にし、社会という大海原に船出しました。「あれから37年…」、かつての農学青年も還暦を迎え、人生の二周目に突入しています。大学の同期ですから細かいことを言えば年齢はバラバラで、もうとっくに還暦を迎えた者もいますし、一昨年そうだった奴もいますし、めでたく去年赤いチャンチャンコを着た輩もいますし、生まれ月の関係で今年やっと60歳を迎える人もいますが、皆で“還暦”を祝い合うとしたら…「今でしょ」という思いつきから「じゃあ、やろう！」ということになり、去年の11月4日に市内のホテルで“鹿児島大学農学部園芸学科昭和55年卒業還暦記念同窓会”という仰々しい名のもとに集まりました。

総勢30名で卒業しましたが、残念ながら一人が早世していますので29名。そのうち遠くは埼玉、千葉から万障繰り合わせて参加した仲間を筆頭に当日の出席は15名を数えました。開宴前に受付で出逢う度に「おお～、元気だったか？」というお決まりの“挨拶”を交わし合い、程度の差こそありますが各人各様

に身に付いたある種の“貫禄”に驚きながらも37年の歳月は一挙に吹っ飛び、懐かしい昔話と悲喜交々の現況報告に笑ったり、頷いたり、また、涙ぐんだりのひとときでした。

“過ぎてしまえば、みな美しい”ある歌の一節です。私たちも学生時代、その時はその時でそれなりに辛いことや悩んだこともあったのだと思いますが、今になって思えば…「たいしたことじゃなかったんだな…」と思うことがしばしばあります。昔の苦労や悩みを逆に懐かしく美しく思えることが、ある意味“歳を取る”ということなのでしょう。だからこそ、卒業以来何十年も経った“同窓会”に集い、お互いに肩を叩き合って楽しむのでしょうか。

卒業以来ほぼ40年が経過し、世の中は大きく様変わりしました。それは母校も同じです。私たちが在



籍した園芸学科という名前も今はもうありません。時代の趨勢と言ってしまうまでもなのですが、卒業生としては一抹の寂しさを禁じ得ません。その

ようないろいろな思いを抱きながら、次回の再会を約束して会は“お開き”となりました。

〔原 修（園S55卒）〕

農業土木・「しらすの会」の報告

2017年4月12日、晴天で桜が満開の中、18時より鹿児島市天文館の一角にあるAホテルで、農業土木講座の先生方（3名）、大学職員OB（1名）、昭和42年卒（4名）、43年卒（5名）、42年卒（3名）の16名の参加を得て、仮称「しらすの会」が開催されました。茨城県、神奈川県、愛媛県、福岡県、熊本県からも駆けつけてきました。

事の起こりは新年の1月2日に鹿児島在住の大学職員OBの花園氏から、茨城にいる筆者にかかってきた電話から始まりました。「鹿児島に来んね」。否応なし。すぐさま筆者から愛媛県在住の43年卒の三保氏に電話。「鹿児島に行くことにしたので一緒にどうですか」。否応なし。暖かくなってから、既定のスケジュールをクリアすることで、4月12日が確定しました。

3月に入って、福岡在住の42年卒の入江氏から電話があり、「12日は15～16人ほど集まるようだ。自分も参加するので、先ず福岡に来て、恩師の河原田禮次郎先生を表敬訪問しよう」。否応なし。

4月11日に福岡入りし、その足で河原田先生を施設に訪ねました。三人で手を取り合って、再会を喜び、農業土木の講座の飲み会で歌った、先生の十八番の歌、仮称「酒のうた」を一緒に歌いました。「嬉しかねえ」先生の一声に、涙、涙でした。福岡では全て入江氏にお世話になりました。

4月12日入江氏運転の車で鹿児島まで南下し、吉野の公園で久しぶりに桜島と対面し、その足で、恩師の難波直彦先生を訪ね、会場まで同行しました。

17時に会場入りし、今回の会を企画、設定していた、44年卒の有元氏を始め、三々五々皆さんが集まって来られました。50年ぶりなのに一目で認識できた人、名前と顔が一致できなかった人等々、しかしながら、それらの違いは一瞬のうちに解消され、今日この日が正に50年前の続きの一日になっていきました。

有元さんより、この会の企画、設定、及び開会の挨拶があり、二つの目的がある事を知らされました。一つは難波先生が今年米寿を迎えられることを、皆でお祝いする事、二つ目は50年来の旧交を温める事です。

「しらすの会」の開幕です。

若松先生、42年卒の南氏より、花束の贈呈が行われ、難波先生のご挨拶を受けました。難波先生は始め

の「嬉しかー」の一言を話されるやいなや、絶句され、出席者一同、感動を共有いたしました。

入江氏から河原田先生をお訪ねし、三人で「酒のうた」を歌った事、皆様に宜しくとの言付けを伝えられました。筆者から「酒のうた」を合唱することを提案し、亡き恩師の先生方、出席出来ない先生方、亡き同窓生の方々、残念ながら本日出席出来なかった同窓生、全ての心が一体となり、涙を流しながら歌いました。

出席者の方々は、県庁、市役所、民間等々、歩んできた道は異なりますが、それぞれから、仕事、家族、苦しみ、楽しみ、誇り…が語られ、皆の50年間の人生を確かに受け止めることが出来ました。43年卒の旧姓佐村氏は土木屋仕事を退任し、地元の本坊酒造に転籍され本坊を名乗られています。

筆者が鹿児島の宴席にも関わらず、ワインを求めたところ、本坊酒造のワインがホテルに納入されており、一同でござそうになりました。



会も終盤にかかったところで、現役の農林環境科学科教員であられる、平 瑞樹先生より、今までの農業工学科（農業土木）の呼び名を含めた変遷、平成28年度からの新しいコースの説明がありました。

生物環境学科の生産環境工学コースが、今までの農業土木の道が継続されているコースであり、新学科になりコース名が地域環境システム学コースに変更されますが、‘必ず農業土木学を引き継ぎますから心配はいりません’との心強い言葉で閉められました。

名残は尽きませんが時間は終焉に達し、2次会に行かれる方、お帰りになされる方、此処でお別れです。

また会う日まで元気で楽しい人生を送ることを確認しました。

出席者一覧

難波 直彦 先生、若松 千秋先生、平 瑞樹先生、
花園 勝男元職員

42年卒：入江 修、中根 俊介、中山 晃、南 洋海

43年卒：塩満 正俊、本坊（佐村）治国、福島 格
輝、三保 禮三、山方 悦義

44年卒：有元 賢隆、徳永 宏一郎、新原 俊一

酒のうた（仮称）

‘この部屋に、涙なんかありゃしない、愉快に歌おうこの歌を

楽しさは、酒の中から浮いてくる、酒の中から、どんと、どんと、どんと浮いてくる’

〔中根俊介（工S42卒）〕



岩堀修一先生傘寿祝賀会 および果樹園芸学研究室同窓会を開催

秋の気配が漂いだしてきた、昨年11月4日土曜日、鹿児島市内のホテルで果樹園芸学研究室の同窓会を開催しました。今回は、果樹園芸学研究室の創設時から指導を受けた岩堀修一先生が数えの年80歳を迎えられ、傘寿のお祝いをメインに、来賓の過去から現在までの先生方と同窓生が日本各地や台湾から113名集まりました。



岩堀先生は、鹿児島大学農学部果樹園芸学研究室創設直後の昭和46年から平成3年までの20年間、果樹の研究や学生指導にあたられた後、筑波大学へと異動されました。鹿児島大学赴任以降のご活躍は、国内だけでなく、国際的にも評価され、平成24年には日本人で初めて国際園芸学会（ISHS）フェローを受賞されました。いつもニコニコされておられる先生、本当にすごい方なのです。今回、久しぶりに御夫妻で来鹿され、一緒に同窓会に出席されました。いつも御夫妻で旅行など楽しまれておられるという

ことで、お伺いすると「車で年に2万キロ以上は走るよ」…お元気ですね、すごいです。

同窓会の乾杯グラスに注がれたのは、昭和60年卒の黒川明さんが手塩にかけて栽培した「不知火」果実の100%生絞りジュース。会場が柑橘の甘い香りに包まれた中、昭和47年卒の迫田先輩の「乾杯！」の聲が響き渡りました。鹿児島には、焼酎文化でもてなしをする「県民条例」があり、焼酎で乾杯をする機会が増えていますが、この瞬間、「果樹園芸学研究室の乾杯は果汁で決まりだ！」と思ったのは私だけでしょうか。黒川さんありがとうございました。また次回もお願いします（笑）。



久しぶりに会う先生方や先輩、後輩そして仲間たち。学年ごとのスピーチも時間が足らず、あっという間の2時間半でした。前回の同窓会（平成27年5月開催）から2年半。研究室の同窓会はこれまで5周年ごとに開催されていましたが、今回を機に、いろいろなお祝いの機会にあわせて同窓会を開くことになりそうです。今回は、「富永茂人先生の古希お祝い」、「小崎格先生の米寿お祝い」そして元号のかわる幻の平成32年は研究室創設50周年です。新しい卒業生も迎え、みなさんお元気で、次の同窓会でまた会いましょう！

〔岩田浩二（園H元卒）〕

学 生 便 り



大学生生活を振り返って

生物生産学科 病害虫制御学講座
植物病理学研究室

芥川 蘭

鹿児島での生活への期待と不安がいっぱいで引っ越してきてもうすぐ4年が経とうとしています。大学生生活を振り返ると講義やアルバイト、海外研修などを通してたくさんの経験をし、多くの人と出会い充実した生活をおくることができました。

大学生活の中で特に印象に残っているのは村おこしのボランティア活動です。村おこしのボランティアには2年と3年の時に参加し、それぞれトカラ列島の宝島と沖縄県の大浦で活動しました。主な活動内容は地域の農家の方のお手伝い、古民家の改修、ビーチ清掃などを行いました。毎日の慣れない作業や、慣れない土地での初対面の他の参加者との共同生活できついと思うことも多々ありました。

しかし、農作業をするにおいて大学で学んだことを活かすことができ講義や実習の大切さを感じました。実習や授業では取り扱わない島ラッキョウやパイナップルの収穫や調整などを通し新たな気づきや多くのことを学ぶことができました。さらに様々な農家の方とたくさん話し、普段知ることのできない農家の方の農業への思いや大変さを知ることもできました。

また、年齢、出身地、大学、学部も異なる他の参加者とのグループワークやディスカッションを通して、多種多様な考えや意見にふれ今までにない刺激を受けました。一緒に活動したのは2週間程の短い期間でしたが、活動終了後も近況を連絡し合ったり、他県に会いに旅行に行くこともあり、多くの人と関わることの楽しさや大切さを改めて感じました。

大学生活も残りわずかですが研究室の仲間と切磋琢磨しながら卒業論文に励むとともに友達や先輩、先生、家族への感謝を忘れずに悔いのない生活をおくりたいです。4月から働くと思うと不安しかありませんが大学で学んだことを糧にして社会人として頑張りたいと思います。



充実した研究室生活

生物資源化学科 食品機能化学コース
食品化学研究室

小山 浩輔

大学生活で一番思い出に残っていることは何だろう？と考えたときに、研究室の友達が思い浮かんだため、研究室生活について書きたいと思います。

私が所属している学科には高校からの同級生が多かったため、大学生活で大きく変わった点は、「通学方法がバスから原付に変わったことではないか」と思えるぐらい、あまり高校時代と変わらない真面目な生活を送っていました。しかし、大学3年生の後期になり、研究室に配属されたことで、今までの生活が大きく変わりました。

授業がないときは研究室で過ごすようになり、特に研究内容が似ていたI君とは多くの時間を共有しました。実験にはなかなか思い通りにいかないものがあり、良い結果を得るまでにおよそ半年かかった実験もありました。その実験を行っているときは、いつもうまくいかず、憂鬱な気持ちになることもありました。しかし、失敗をしたとき、いつも隣にはI君がいました。私たちは、何度も何度もその実験を行い、その都度失敗の原因を考え、先生や先輩からのアドバイスのおかげもあり、最後には良い結果を得ることができました。半年間失敗し続けたにもかかわらず、同じ実験を続けることができたのは、待ち時間に他愛のない話をし、夜遅くまで残るときも一緒に残ってくれる友達がいたおかげだと思います。実験自体はもちろん一人で行うものですが、隣で実験をしている人がいると、一人で行う時以上に自分も努力できるため、一緒に実験する同級生や先輩ができたことは大学4年間での一番の宝物だと思います。

研究室での生活は、約一年間という短いものでしたが、実験結果について分からないところがあるといつも教えてくれる先生、実験を失敗したときに一緒に対処方法を考えてくれる先輩、土日でも気楽に遊べる同級生との出会いがあり、とても充実したものになりました。



大学生生活を振り返って

生物環境学科 環境システム学コース

農業環境システム学研究室

永留 萌

大学生生活を振り返ってみると、たくさんの出来事があったことが思い出されます。初めて、一人暮らしをすることになり、また学部に関わり合いなどいかなかったため、この先ちゃんとやっていけるのか不安な気持ちだった4年前の自分を懐かしく思います。

大学生になると、高校生の頃と比べると、行動範囲が格段に広がり、楽しい思い出がたくさんできました。また、時間的な余裕もあったので改めて自分の地元を探索し、今まで気づくことができなかった良さを知ることが出来たことも良かったなと思います。

大学4年生の頃は、就職活動が本格的に始まり、説明会や面接などで社会人の先輩方とお話をさせて

いただく機会が多くありました。はじめの頃は、一方的に相手の話を聞くだけになってしまうことが多かったのですが、そのような場を何度も経験していくうちに、少しずつですが、自分が知りたいことや考えを相手に伝えることが出来るようになりました。就職活動を通して、度胸がつき、自分自身が成長できたように思います。就職活動と並行して、卒業論文についても取り組み始めました。どうすればいいのかわからず、考え込むこともありましたが、残りの期間、自分の卒業論文に懸命に取り組んでいきたいと思います。また、卒業論文のために、研究室で過ごすことも多くなったのですが、研究室での生活は、先生方や友人たちのおかげで自分が想像していた以上に有意義で、楽しいものとなっています。卒業後もこのつながりを大切にしていきたいです。

最後になりますが、充実した4年間の大学生活を送ることが出来たのは家族を始め、多くの方々の支えのおかげであると思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、お世話になった人たちに恩返しができるように日々頑張っていきたいと思います。

恩師・同窓のお慶びならびに訃報

先生の退職・新任・昇任

【定年退職】

秋山 邦裕 平成30年3月31日付
(農業生産科学科食料農業経済学コース農業経営学分野 教授)

曾根 晃一 平成30年3月31日付
(農林環境科学科森林科学コース森林保護学分野 教授)

【昇任】

なし

【新任】

後藤 貴文 平成29年5月1日付
(農業生産科学科畜産科学コース食肉科学分野 教授)

香西 直子 平成29年7月1日付
(農業生産科学科応用植物科学コース果樹園芸学分野 講師)

受賞

下川 悦郎(名誉教授) 平成29年9月
：平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰

島元 紗希, 井尻 大地, 中島 一喜, 川口 真奈,
井之上 弘樹, 多田 司, 大塚 彰(生物資源科学科)
平成29年3月：日本家禽学会2017年度春季大会優

秀発表賞

岩井 久(食料生命科学科) 平成29年4月

：平成29年度 日本植物病理学会 学会賞

地頭蘭 隆(共同受賞)(農林環境科学科)

平成29年5月：平成29年度砂防学会賞(技術賞)

池永 誠(食料生命科学科)

平成29年8月：第3回 日本微生物生態学会奨励賞

吉田 理一郎(共同受賞)(農業生産科学科)

平成29年9月：日本植物学会 Journal of Plant Research Best paper賞、

北原 兼文(共同受賞)(生物資源化学科)

平成29年9月：平成29年度日本応用糖質科学会技術開発賞

宮本 葵, 門岡 千尋, 濱田 健太, 奥津 果優,
吉崎 由美子, 高峯 和則, 玉置 尚徳, 二神 泰基
(生物資源化学科) 平成29年11月

：第17回糸状菌分子生物学コンファレンス企業特別賞 マルコメちゃん奨励賞(2017年11月16-17日)

門岡 千尋(生物資源化学科) 平成29年11月

：第17回糸状菌分子生物学コンファレンス企業特別賞 学生優秀ポスター発表賞

村上 愛, 坂尾 こず枝, 章 超, 河野 邦晃,
岩井 謙一, 高瀬 良和, 侯 徳興(生物資源化学科)

平成29年10月：食と健康国際学会2017年度大会ポスター賞
 塩入ヶ谷 祐樹、侯 徳興、坂尾 こず枝（生物資源化学科）平成29年10月
 南 将平、侯 徳興、坂尾 こず枝（生物資源化学科）：食と健康国際学会2017年度大会ポスター賞
 平成29年10月：食と健康国際学会2017年度大会ポスター賞
 加治屋 勝子（食料生命科学科）平成29年12月
 ：国際ソロプチミスト女性研究者賞

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
八尋 正樹	旧賛助	H.28. 4.3	滋賀県守山市立入町117-7	子息 克郎
小川 清彦	旧賛助	H.29. 4.23	東京都府中市八幡町2-8-22	子息 清一郎
川崎 安亮	旧賛助	H.30. 1.28	鹿児島市明和4-14-10-45	夫人 知子
加治屋 一馬	A.S.14	H.22. 5.31	鹿児島県南さつま市金峰町尾下2704	子息 亮一
古藤 修	A.S.16	H.29. 1.6	鹿児島県曾於市末吉町二之方荷原2117	子息
野口 方士	A.S.16	H.29. 2.6	鹿児島県鹿児島市桜島武町430	
大野 隼夫	A.S.17	H.27. 2.22	鹿児島県奄美市笠利町里	
山口 健二	A.S.18	H.28. 10.8		
國武 正彦	A.S.22	H.29. 3.10	新潟県長岡市中貫町2-1-3	子息 千秋
有村 清光	A.S.24	H.29. 9.	宮崎市江南1-5-8	
村上 雅二	A.S.24	H.29. 4.11	大分県大分市上戸次4076	子息
久原 重松	A.S.25		佐賀県小城市牛津町上砥川2405-5	
落合 浩英	A.S.32	H.29. 7.1	鹿児島県西之表市国上2581	夫人 紀子
河野 三郎	A.S.33	H.29.	神奈川県横浜市南区山王町1-8-2-802	
荒武 重信	A.S.36	H.29. 2.	大阪府池田市石橋2-8-24 ベルグ2番館502	夫人
末永 泰之	A.S.37	H.29. 1.5	千葉県我孫子市湖北台10-1-25	夫人
前田 勲	A.S.37	H.29. 1.29	京都府八幡市西山足立4-7	
二反田 廣	F.S.9	H.14. 1.25	鹿児島県南九州市川辺町下山田6216-2	子息
川野 哲夫	F.S.23	H.29. 3.1	熊本市東区桜木3-21-29	夫人
平田 昭彦	F.S.25	H.28. 6.3	鹿児島市星ヶ峯4-36-16	夫人 ふみ子
川畑 克己	F.S.25	H.27. 2.27	鹿児島県始良市松原町2-5-6	夫人
丸山 陽生	F.S.26	H.15. 8.15	さいたま市本郷町42-6	夫人 ケイ
魚本 知正	F.S.26	H.27. 9.15	徳島県小松島市小松島町房浜74-1	夫人 澄子
小倉 裕	F.S.26	H.22. 9.23	愛知県名古屋市中区西味鉦2-108	夫人 直子
川路 三郎	F.S.26		東京都江戸川区西葛西5-10-26-911	
高野 紀之	F.S.26	H.27. 7.2	熊本県上益城郡嘉島町下六嘉3555	
田中 美実	F.S.26	H.26.	佐賀市本庄町本庄1323-5	夫人 冴子
西田 春人	F.S.26	H.22. 9.5	鹿児島市錦江台1-32-7	夫人 邦子
松崎 輝雄	F.S.26	H.27. 3.19	京都府城陽市枇杷庄島の宮80-291	
金子 守男	F.S.26	H.29. 3.13	鹿児島県指宿市西方219-1	夫人 比登美
出水川 則夫	S.S.15	H.15. 3.6	兵庫県神戸市垂水区多聞台1-7-12	
八木 隆	S.S.16	H.21. 12.6	山口県防府市仁井令鍛冶屋459-4	令嬢 藤井博子
田村 芳保	S.S.20	H.28. 10.1	島根県松江市浜乃木1-25-26	令嬢
田上 清隆	S.S.22	H.28. 12.23	鹿児島市稲荷町17-15	令嬢 はやまやすこ
三瀬 正和	S.S.22	H.24. 5.19	愛媛県大洲市五郎甲2526	子息
上川 喜三郎	S.S.26	H.28. 7.28	鹿児島県霧島市隼人町小田48-30	夫人
的場 武夫	S.S.26	H.27. 7.11	神奈川県横浜市戸塚区南舞岡3-27-6	夫人 玲子
山口 友暢	C.S.14	H.28. 11.13	兵庫県川西市緑台31-68	
野田 昌隆	C.S.15	H.29. 3.	鹿児島県鹿屋市本町12-5	子息 けいいち
間 武麿	C.S.16	4年前	大阪府吹田市長野東25-21-707	子息 文麿
吉原 泉	C.S.18	H.30. 1.16	鹿児島市緑ヶ丘町10-14	子息 正
谷川 渡	C.S.19	H.29. 3.31	宮崎県延岡市若葉町2-2633-19	子息 昭夫
平尾 喜曾二	C.S.20	H.26. 10.11	香川県高松市屋島東町515-334	夫人 久美子
柴田 保和	C.S.24	H.24. 7.	大阪府箕面市新稲4-11-41	令嬢
田上 三夫	C.S.28	H.29. 5.8	神奈川県横浜市港南区芹ヶ谷5-11-54	令嬢 鹿野道子
宮内 信文	C.S.35	H.29. 10.2	鹿児島市西田3-4-10	令嬢 鶴池由美子
楠元 節雄	C.S.38	H.23. 9.9	鹿児島県出水市向江町11-10	
宇田川 哲	V.S.17	H.25.	千葉県市川市国府台1-10-13	令嬢 宇田川朋子
岩元 重弘	V.S.19	H.29. 2.7	鹿児島県鹿屋市南町3662	夫人 フサ子
小旗 弘	V.S.20	H.27. 2.20	佐賀県佐賀市長瀬町6-33	
竹内 正郎	V.S.23	H.30. 1.21	大阪府藤井寺市梅が園町10-9	夫人
高原 勲	V.S.25	H.28. 1.29	福岡県福岡市博多区東那珂2-9-2	令嬢 中嶋由美子
柳田 功	V.S.25		東京都目黒区碑文谷1-17-10	夫人
鈴木 達郎	V.S.42	H.29. 3.31	千葉県成田市加良部4-13-13	夫人 千恵子
宮里 満	E.S.26	H.29. 10.27	鹿児島市紫原6-10-14	夫人 和子
小野 剛士	H.S.56		福岡県久留米市山川追分2-3-43-11	夫人 佳子
松元 博行	H.S.56		宮崎市高岡町下倉永725-1	夫人 圭子

本 部 便 り

I. 運営の健全化事業の経過報告

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織する「鹿児島大学農学部あらた同窓会」の運営は会員の年会費をはじめ学生会員である新入生が納付する入会金・会費などを主な財源としています。しかし、前号（平成29年春季号）に記載したように近年、本会の年会費の納付者数は漸減し、平成21年度から2年間会計収支の赤字が続きました。あらた同窓会では、幹事会→評議員会→総会で「会計の健全化」について協議を行い、「会費納入のお願い」を支部総会出席時にお願いするとともに、会報において呼びかけました。また、平成29年春季号において「終身会員」および「賛助会員」に会報賛助金を募集しました。その結果165名と1支部から合計で約114万円の賛助金があり、役員（常任副会長および常任幹事）から寄付があったことなどにより、平成28年度会計の収入は予算額に比べて92.6万円の黒字になりました。

一方、支出については財政悪化の大きな原因になっていた定期刊行物の「あらた同窓会報」の頒布方法について平成27年度に行った「平成28年春季号の住所判明者全員への頒布」を見直し、一時的な措置として平成28年度発行の「平成29年春季号」については「直近の5年間に会費納付の実績を有する者」、「80歳以上の会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」と、数年かけてでも「可能な限り多くの会員」に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けするという趣旨で、卒業後5（H.24卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.37卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している会員に頒布することになりました。さらに、「あらた同窓会報」平成29年春季号および平成29年秋季号と平成29年3月卒業生名簿についてはそれぞれ4社から「相見積もり」を提出して貰い最安価格の印刷会社に印刷をお願いするとともに会員への郵送についても相見積もりを取り、最安の会社に郵送を委託しました。また、事務局事務員の雇用を一時的に短縮しました。これらのことを行った結果、平成28年度の支出総額は予算額よりも約118万円減少しました。

その結果、平成28年度一般会計の収支決算では約210万円の繰り越しになり、平成28年度はあらた同窓会財政は慢性的な赤字から脱却しました。

このような取り組みは平成29年度も継続することに

し、「あらた同窓会報」平成30年春季号および平成30年卒業生名簿の印刷についても4社から「相見積もり」を取り最低価格を提示した印刷会社に依頼を行っています。また、「常任幹事」からの提案により平成28年度支給を取りやめた「常任幹事手当」については、引き続き平成29年度予算には計上致しませんでした。平成28年度に一時的に短縮した事務局事務員の雇用については、平成29年度は過去と同じ月水金の10:00~16:00に戻すことにいたしました。

なお、あらた同窓会では「同窓会活動の本質」である「会員相互の交流の拡大」や将来的には「全員参加型の同窓会に再生」とすると同時に「運営の健全化」を維持していくという目標に向かって引き続き努力をしていきたいと考えています。そのためには、合理的な財政運営を継続して行うとともに「会費納入」、「支部活動」および本部活動などに、できるだけ多くの会員の皆様の参加・ご協力が必要です。会員皆様方の積極的な参加によって「あらた同窓生の絆」がさらに強まり、「あらたの伝統」が次世代へ継承されると確信しています。

このように、「あらた同窓会」としては、新しい時代の同窓会の構築を目指して今後も事業を進めて参りますが、いまだ大半（約80%）の会員は年会費未納であります。今後の健全運営には、会費納付率の向上と会費収入の改善が喫緊の課題であることを会員に訴え、改善への協力を要請する次第です。

II. 事業及び会計に関する報告

1. 平成29年度総会

平成29年度総会は、平成29年11月23日、15:00から19:00、鹿児島市上荒田町のジェイドガーデンパレスにおいて開催されました。

1) 講演会（15:00~16:00）

恒例の講演会は、昨年と同じ「あらた同窓OB・OGの活躍」というテーマで、鹿児島県農業開発総合センター・生産環境部・病理昆虫研究室長・西 八束氏（農学科・H.1卒）による「鹿児島県のジャガイモそうか病菌と防除対策」の講話であった（講演要旨は本誌6頁参照）

2) 総会（16:00~17:00）

藤田晋輔会長および岩井 久農学部長の挨拶に続き、議長として内 國弘氏（農学科S33）が選出され、内 議長のもとで下記の議案について事務局の趣

旨説明を行い、審議の結果、いずれの議案も意義なく承認されました。

承認議案は以下のとおりです。

- (1) 平成28年度の事業報告（案）、一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）、功労者表彰特別会計収支決算（案）並びに監査報告
- (2) 平成29年度の事業計画（案）、一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）並びに功労者表彰特別会計収支予算（案）

2. 評議員会

平成29年度評議員会は、11月15日（水）、17：30からあらた記念会館で開催されました。

藤田晋輔会長並びに岩井久学部長の挨拶の後、会長が議長を務め、総会に付議する事項等について審議が行われました。

審議では、最初に平成28年度の事業報告（案）、一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）、功労者表彰特別会計収支決算（案）について事務局の説明があり、続いて監事から会計監査報告の後、一括して質疑応答が行われました。その主要な論点は以下の通りであり、いずれの議案も承認されました。(1)「あらた同窓会報平成29年春季号」の頒布先については同窓会会計の点から幹事会で検討した結果、「直近の5年間に会費納付の実績を有する者」、「80歳以上の会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」と、可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けするという趣旨で、卒業後5（H.24卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.37卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している会員（約1,300名）に会報を頒布したことを報告し了承された。(2)「一般会計収支決算（案）」と「名簿特別会計収支決算（案）」については、あらた同窓会報並びに会報送付経費および卒業生名簿の印刷について、それぞれ相見積もりを取り、最低価格の会社に委託したこと、事務員の雇用を一時的に短くしたこと等により支出額が大幅に減少したこと、「終身会員」および「賛助会員」に会報賛助金を募集した結果165名と1支部から合計で約114万円の賛助金があったこと、役員（常任副会長および常任幹事）から寄付があったことなどにより収入が大幅に増加し、その結果、平成28年度の収支決算は約210万円の繰り越しが報告され、いずれも承認された。

次に、平成29年度の事業計画（案）、一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）並びに

功労者表彰特別会計収支予算（案）について事務局の説明があり、質疑応答が交わされました。その主要な論点は以下の通りである。(1)「平成30年会報春季号の頒布」については、平成29年と同様の方針で頒布すること、(2)「会報および卒業生名簿」の印刷については前年同様相見積もりを取り最低価格の会社に委託すること、(3)役員手当のうち常任幹事の手当については、常任幹事からの申し出により廃止すること（会計監査委員から「何らかの形で幹事活動に謝意を表すべきである」との申し入れがあった事から謝意については幹事会で検討していく）、(4)同窓会会計逼迫のために一時的に縮小していた事務員の雇用については以前の状態に戻していくこと、(5)「鹿児島大学同窓会連合会」を通じて各学部同窓会に対して求められてきた『**鹿大「進取の精神」支援基金**』への取り組みについては、幹事会で協議し、「あらた同窓会」としても他学部同窓会と同様に、総額300万円を1回で寄付することとし、平成29年度予算において、平成28年度決算の剰余金約200万円から100～150万円を支出し、残額については、基金特別会計から一時借用し、一般会計から基金に年次計画で返却して行くことを提案することになったこと、(6)2019（平成31）年は1909（明治42）年から110年を迎えることになるが、幹事会において、平成31年に開学110周年記念事業を行うかどうかについて検討した結果、開学125年にあたる2034年までは間が空くこと、同じ年の2019（平成31）年には鹿児島大学が開学70周年を迎え、「鹿児島大学開学70周年記念事業」が計画されることもあり、毎年3月に発行している「あらた同窓会報春季号」を「農学部創立110周年記念号」として発行することとし、その原稿募集を平成30年春季号で行うこと、開学110周年記念式典については大学の開学70周年記念事業の進展状況を見ながら、平成31年11月23日に農学部と協力して「ミニ式典」を行うことについて検討することになったことなどが報告され、種々議論の末、承認されました。

加えて、「あらた同窓会会員名簿」について、前回平成25年3月発行から5年が経過し、名簿情報が古くなったこと、平成31年3月卒業生へ配布する同窓会名簿CD版の在庫が無くなることから、平成30年7月発行を目途に名簿を作成すること、作成に当たっては印刷会社4社に相見積もりと出してもらい、会長および学内幹事会で検討し、最低価格の見積もりであった〔株式会社SALAT〕に委託することを報告し、意義無く承認されました。

さらに、役員の選任について事務局の説明がなされ、原案どおり承認されました。

3. 常任幹事会及び幹事会

常任幹事会及び幹事会は合わせて5回（うち1回はメール会議）開催され、会報の編集及び発行、評議員会に付議する議案書の作成、講演会の企画・実施、同窓会運営の健全化方策ならびにホームページの管理等について協議が行われました。

平成29年度も随時開催して、本会の事業の企画・実施等について協議を行います。

4. 会計監査

平成28年度の会計監査は平成29年10月23日（月）に3名の監事によって実施され、本会の事業および会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が会長宛に提出されました。加えて、平成29年度から支給を廃止することにした「幹事手当」について、「財政逼迫のおりから理解はできるが、何らかの形で幹事活動に謝意を表すべきである」と口頭で申し入れがあった。

平成29年度の会計監査は平成30年10月に実施する予定です。

5. 会報の発行

あらた同窓会報は、平成29年3月24日に春季号、平成29年11月23日に秋季号を発行しました。

前述のように、平成29年春季号は、「直近の5年間に会費納付の実績を有する者」、「80歳以上の会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」と、可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けするという趣旨で、卒業後5（H.24卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.37卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している会員（約1,300名）に会報を頒布しました。学生会員を対象に発行している秋季号は、学生会員全員と農学部および共同獣医学部教員の他、地域支部総会時に出席者である一般会員に頒布しました。

今年発行の平成30年春季号については、同様に、卒業後5（H.25卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.38卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している会員に頒布します。

6. 講演会

本会与学部共催の学生向け講演会は、平成29年7月27日（木）、16:20～17:40 農・獣医共通棟101号教室において、前年同様のテーマ『「海外で経験し、学ぼう」－高等農林学校建学の精神から－』で、実施した。講師には鹿児島大学グローバルセンターの畝田谷桂子教授、大学院生物生産学専攻1年

の大西弘也君、生物資源化学専攻2年の松野美里さんおよび共同獣医学部三浦直樹先生を迎え、それぞれの経験から「海外留学に向けての準備や心構え等」についてお話を伺った。教職員、学生合わせて50余名の学生が参加した。講演要旨は平成29年11月23日発行の「あらた同窓会平成29年秋季号（学生向け会報）」に掲載した。

11月23日の平成29年度本部総会時に行われた恒例の講演会は、「あらた同窓OB・OGの活躍」というテーマで、鹿児島県農業開発総合センター・生産環境部・病理昆虫研究室長・西 八束氏（農学科・H.1卒）による「鹿児島県のジャガイモそうか病菌と防除対策」の講話で、約50名の聴講者がありました（講演要旨は本誌6頁参照）。

7. 地域支部との交流

本会は、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、本部役員あるいは学部教員を派遣し、支部会員との交流を図ります。平成28～29年度現在までの派遣先は、近畿・兵庫あらた会、佐賀あらた会、熊本あらた会、鹿児島あらた会、鹿児島市役所支部および長崎あらた会でした。

8. 鹿児島大学同窓会連合会の事業

1）鹿児島大学同窓会連合会の構成同窓会として、4月の入学式に合わせて開催される「鹿児島大学同窓会連合会・総会および懇親会」には、積極的に参加し、鹿児島大学との連携の維持発展に貢献しました。年3回開催予定の役員会（会長と常任副会長が出席）および幹事会（常任副会長が出席）にも、積極的に出席し、他学部同窓会との情報交換を活発に行うとともに、大学が行っている各種取り組みには可能な限りの協力を行いました。

同窓会連合会が年2回発行している「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会活動」について寄稿するとともに、発行された会報については、本部総会及び地域支部総会の出席者に頒布し、鹿児島大学および各学部同窓会活動の広報に寄与しました。今後、頒布を希望される方はその旨、連合会本部事務局（Tel:099-275-6881,Fax:099-265-9784、e-mail:kakuryo@kufm.kagosima-u.ac.jp）、あらた同窓会本部事務局（Tel/Fax:099-285-8537、E-mail:aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp）までご連絡ください。

2）『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて：本基金は鹿児島大学の教育・研究に対する取り組み強化を目的としていることから、同窓会連合会は基金の趣旨に賛同し、同窓生への呼びかけ

を行ってきました。また、あらた同窓会としても同窓会連合会の構成員の一団体であることから協力して行くことはすでに決定していました。平成29年度には協力額および方法について幹事会で協議しました。その結果、上記Ⅰ. 運営の健全化事業の経過報告でも記載したように、平成28年度収支決算で約210万円の繰越金が出たこともあり、「あらた同窓会」としても他学部同窓会と同様に、総額300万円を1回で寄付することとし、平成29年度予算において、平成28年度決算の剰余金約210万円から150万円を支出し、残り150万円については、基金特別会計から一時

借用し、一般会計から基金に年次計画で返却して行くことを、評議員会および総会に提案し、了承を得ました。今年はそれを実行することにいたします。

9. その他

先に述べたように、平成29年度の種々の取り組みにおいて、同窓会財政の逼迫が少し改善されたことから「事務員の雇用形態の一時的縮小」については解消することに致しました。一方、会費納入促進策を検討・実施すること、引き続き合理的な健全な財政運営をおこなっていくことにいたします。

会報賛助金協賛者及び寄付者ご芳名 H.29.2.20~H.30.1.4

学科卒年	氏 名
旧賛助	青 木 孝 良
旧賛助	原 彰
旧賛助	鮫 島 吉 廣
旧賛助	赤 井 英 夫
旧賛助	佐 藤 宗 治
旧賛助	森 原 和 之
旧賛助	田 寺 謙次郎
旧賛助	田 邊 幾之助
AS17	志 気 武
AS18	安 田 繁
AS19	吉 岡 季 雄
AS20	横 山 佐太正
AS20	斉 藤 正 夫
AS20	内 波 秀 一
AS22	春 松 高
AS22	大 渕 深
AS22	中 村 秀 徹
AS22	宝 満 正 治
AS23	玉 利 半 三
AS23	是 澤 儀 明
AS23	福 留 達 夫
AS23	赤 崎 義 則
AS23	児 玉 晃
AS23	後 藤 義 行
AS25	武 内 齊
AS25	轟 木 昭 俊
AS25	田 上 不 二 夫
AS25	深 町 十 吾
AS25	湯ノ上 光 昭
AS26	堂 元 邦 典
AS26	中 島 英 男
AS26	八 幡 正 則
AS28	寺 尾 正 徳
AS29	井 上 晃 一
AS29	越 猪 忠 祐
AS29	逆瀬川 國 男
AS30	福 田 力
AS31	佐 竹 虎 雄
AS31	長 野 和 夫
AS31	村 井 敏 夫
AS32	中 園 和 年
AS32	加 来 節 夫
AS32	松 澤 宜 生

学科卒年	氏 名
AS32	有 園 勉
AS32	杉 田 旭
AS32	石 畑 清 武
AS32	築 島 敬 一
AS32	古 市 吉 男
AS33	記 原 健一郎
AS34	神 吉 善 茂
AS34	吉 岡 庭二郎
AS36	原 田 洋
AS37	萩 典 宏
AS39	今 屋 洋
AS39	堀 切 俊 幸
AS41	永 富 成 紀
AS42	富 岡 忠 勝
AS42	江 田 耕 造
AS44	石 原 宏
AS47	池 端 裕 昭
AS52	平 井 正 明
AS53	佐々木 幸 子
AS56	山 下 修 司
FS18	土 永 博
FS18	宮 原 房 夫
FS22	山 本 稔
FS22	時 崎 勝 彦
FS23	山 口 莊 治
FS24	小 幡 辰 雄
FS24	八重倉 優
FS24	紀 野 武 夫
FS25	国 分 友三郎
FS26	小 牧 昌 文
FS28	有 馬 純 敏
FS28	田 丸 正
FS29	内 邦 博
FS30	永 仮 肇
FS30	藥 丸 陽 一
FS31	野 口 英 昭
FS31	濱 田 直 章
FS31	岩 崎 健 生
FS31	松 枝 洋一郎
FS31	岩 野 文 二
FS32	上 野 達 木
FS32	後 迫 巖
FS33	桑 原 武 男

学科卒年	氏 名
FS34	金 子 義 幸
FS34	山 下 欽三郎
FS34	川 邊 恭 右
FS35	落 合 寅 夫
FS39	西 田 孝 義
FS44	遠 矢 良太郎
FS44	下 川 悦 郎
FS46	北 村 良 介
FS48	楠 本 敬 憲
FS51	門 松 昌 彦
CS18	吉 原 泉
CS19	種子島 一 弘
CS22	前 田 忠 二
CS25	小 川 實
CS28	伊 東 祐二郎
CS29	迫 田 太
CS29	宇田川 義 夫
CS29	森 園 岩 夫
CS30	福 永 隆 生
CS31	慶 田 喜 徳
CS31	小 野 敬一郎
CS34	小 川 泰 雄
CS34	長谷場 彰
CS34	西 迫 順 弘
CS34	堤 将 和
CS37	堀 田 宗 浩
CS37	相 庭 繁 行
CS40	村 上 暁
CS42	井 川 隼 次
CS42	岩 下 徹
CS44	富 永 隆 一
CS47	瓜 生 直 樹
CS50	西 澤 保 孝
CS59	宇都宮 裕 子
SS18	加 藤 達 雄
SS22	増 田 信 己
SS24	田 原 富貴男
SS24	鳥 浜 義 己
SS26	下大迫 二 徳
SS26	的 場 武 夫
SS26	川 尻 幸 夫
SS26	安 藤 孝 輔
SS29	橋 口 勉

学科卒年	氏 名
SS30	上久保 哲 朗
SS32	永 峯 隆
SS36	大 岩 勝 徳
SS36	福 元 義 人
VS19	山 口 正 巳
VS20	岩 永 重 義
VS22	井 出 義 男
VS22	福 田 昌
VS22	平 山 慶太郎
VS23	竹 内 正 郎
VS23	森 園 充
VS23	中 園 明
VS26	武 村 氏 彰
VS26	白 坂 昭 治
VS30	鈴 近 男
VS31	蔵 原 久 輝
VS32	米 倉 弘 明
VS33	藤 田 満
VS34	白 石 義 明
VS36	松 元 計 士
VS37	石 田 文 洋
VS55	本 山 健 次
VH2	中 村 修
GS32	玉 利 道 満
GS33	鎌 田 澄 利
GS33	阿 部 正 文
GS35	中馬越 一 馬
GS39	安 藤 将
GS39	植 谷 治 夫
GS39	高 村 喜八郎
ES26	豊 釜 勇
ES45	秋 永 孝 義
ES49	中 村 隆
ES53	中 原 拓 郎
ES54	辻 田 正 文
HS48	富 永 茂 人
HS51	原 耕
HS57	鰺 坂 明 彦
HS58	清 原 良 博
HS59	中 村 秀 人
HS60	長 崎 奈 美

近畿あらた会

あらた同窓会役員名簿

名 誉 会 長	赤崎 義則（農23）			
顧 問	岩井 久（農55）			
会 長	藤田 晋輔（林37）			
副 会 長	浮津 護（林38）	池端 裕昭（農47）		
	上林房行信（農工51）	富永 茂人（常任・園48）		
監 事	下川 悦郎（林44）	黒木 譲二（農47）		
	菊川 明（農48）			
常 任 幹 事				
庶務担当	田浦 悟（農59）	南 雄二（化59）		
会計担当	末吉 武志（農工平5）			
会報担当	梶木 直也（化58）	遠城 道雄（院農59）		
	寺本 行芳（環平7）			
名簿担当	津田 勝男（農55）			
広報担当	平 瑞樹（農工62）			
幹 事	坂井 教郎（賛助）	清水 圭一（賛助）		
	岡 勝（林55）	大塚 彰（畜平1）		
	高山 耕二（院生平8）	三浦 直樹（獣平9）		
評 議 員	内 國弘（農33）	脇 秀一郎（農41）		
	東 孝行（農46）	西田 和夫（農57）		
	溝添 俊樹（林41）	大坪 弘幸（林45）		
	永田 鉄山（蚕30）	林 満（蚕35）		
	大岩 勝徳（蚕36）	稲永 醇二（化42）		
	吉満浩一郎（化59）	堀之内達男（獣33）		
	新納 時英（獣44）	高橋 亘（獣46）		
	佐々木幸良（獣58）	中村 博大（畜43）		
	東久保研一（園48）	大久保祐司（生平6）		
	石橋松二郎（資平6）			
	（役職指定）	各地域支部長		
		農学部副学部長および学科長		
鹿児島支部幹事				

平成28年度一般会計決算書

収入額 6,200,313円 支出額 4,092,201円
繰越金 2,108,112円

収入の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
会費	5,230,000	4,578,000	652,000	
年会費	2,800,000	2,300,000	500,000	延べ1,150名
入会金				新正会員6名(18,000) 在校生22名 (220,000) 新入生179名 (1,790,000) 卒業生2名 (20,000)
	2,080,000	2,048,000	32,000	
懇親会費	350,000	230,000	120,000	総会会費 (46人分)
会報賛助金	0	1,136,200	△1,136,200	拠出者165名 近畿あらた会
雑収入	10,000	450,005	△440,005	寄附金 (450,000) 利子 (5)
繰越金	33,391	33,391	0	
繰入金	0	2,717	△2,717	基金利子 (2,717)
合計	5,273,391	6,200,313	△926,922	

支出の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
会議費	458,000	342,782	115,218	
総会費	378,000	280,800	97,200	総会会費 (5,400円×52名)
役員会費	80,000	61,982	18,018	幹事会、会計監査、評議員会
事業費	2,770,000	1,882,083	887,917	
印刷費				学生向け会報 (302,400) 春季号会報 (440,100) 封筒・払込取扱票 (32,400)
	1,000,000	774,900	225,100	
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金				熊本林務 (20,800) 広島 (3,200) 近畿 (3,600) 兵庫 (4,000) 佐賀 (6,800) 鹿児島 (161,200)
	200,000	199,600	400	
旅費				熊本 (30,880) 宮崎 (7,740) 佐賀 (36,960)
	200,000	75,580	124,420	
通信運搬費	1,000,000	482,003	517,997	会報送料 (378,913) 振込手数料等 (103,090)
講演会費	20,000	0	20,000	
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	平成31年度実施予定
事務局費	1,207,000	1,143,642	63,358	
役員報酬	360,000	360,000	0	常任副会長
賃金				給料 (181,600・3ヶ月分) (279,200・9ヶ月分)
	450,000	460,800	△10,800	
備品費	50,000	0	50,000	
消耗品費	30,000	13,725	16,275	事務用品等
光熱水費				電気 (72,126) 上下水道 (7,186)
	100,000	79,312	20,688	
通信運搬費				インターネット接続料 (20,736) 電話 (71,993) サーバー使用料 (10,886) 切手 (10,596) ハガキ (23,380) 送料等 (36,162)
	150,000	173,753	△23,753	
賃借料	57,000	56,052	948	会館建物使用料
慶弔費	10,000	0	10,000	
会館修繕費	0	0	0	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費				同窓会連合会負担金 (36,000・2000円×18名) 出版物 (2,592) 寸志等 (35,102)
	120,000	73,694	46,306	
繰出金	550,000	550,000	0	名簿特別会計へ
予備費	68,391	0	68,391	
合計	5,273,391	4,092,201	1,181,190	

平成28年度同窓会名簿特別会計決算書

収入額 1,571,618円 支出額 48,600円
繰越金 1,523,018円

収入の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
名簿代	20,000	0	20,000	
雑収入	100	6	94	利子
繰越金	1,021,612	1,021,612	0	
繰入金	550,000	550,000	0	一般会計より
合計	1,591,712	157,1618	20,094	

支出の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
名簿作成費	60,000	48,600	11,400	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	60,000	48,600	11,400	卒業生名簿 500部
通信運搬費	1,000	0	1,000	
個人情報 業務委託費	162,000	0	162,000	
予備費	1,368,712	0	1,368,712	
合計	1,591,712	48,600	1,543,112	

平成28年度功労者表彰特別会計決算書

収入額 277,416円 支出額 0円
繰越金 277,416円

収入の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
繰越金	227,414	227,414	0	
繰入金	50,000	50,000	0	平成28年度積立金
雑収入	300	2	298	利子
合計	277,714	277,416	298	

支出の部

項 目	予算額	決算額	差 異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	277,714	0	277,714	
合計	277,714	0	277,714	

あらた同窓会資産表

平成29年9月末日現在

基金特別会計

定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円
定期預金	南日本銀行	3,000,000円
普通預金	鹿児島銀行	601,539円
合計		13,601,539円

一般会計

普通貯金	郵便局	2,108,112円
------	-----	------------

名簿特別会計

普通貯金	郵便局	1,523,018円
------	-----	------------

功労者表彰特別会計

普通貯金	南日本銀行	277,416円
------	-------	----------

統計	17,510,085円
----	-------------

監 査 報 告 書

あらた同窓会平成28年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

平成29年10月23日

あらた同窓会

監事

下川悦郎 (印)

監事

吉山安夫 (印)

監事

菊川明 (印)

あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

平成29年度一般会計収支予算書

収入額 9,000,112円 支出額 9,000,112円

収入の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会費	4,930,000	4,578,000	352,000	
年会費	2,500,000	2,300,000	200,000	延べ 1,250名
入会金	2,080,000	2,048,000	32,000	新入生10,000円× (205名) 新正会員3,000円× (10名)
懇親会費	350,000	230,000	120,000	5,000円× (70名)
会報賛助金	100,000	1,136,200	△1,036,200	
雑収入	360,000	450,005	△90,005	寄附金、利子等
繰越金	2,108,112	33,391	2,074,721	
繰入金	2,000	2,717	△717	基金利子
借入金	1,500,000	0	1,500,000	基金から、進取の精神寄 付金への借り入れ ^(注)
合計	9,000,112	6,200,313	2,799,799	

注) 基金特別会計から150万円を一時借用し、合計で300万円を一括寄付する。
基金には一般会計から年次計画で返却する。

支出の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会議費	458,000	342,782	115,218	
総会費	378,000	280,800	97,200	総会会費 (5,400円×70名)
役員会費	80,000	61,982	18,018	幹事会、会計監査、評議員会
事業費	2,070,000	1,882,083	187,917	
印刷費	800,000	774,900	25,100	会報 (秋季号、春季号)
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	199,600	400	各支部へ
旅費	200,000	75,580	124,420	支部総会出席等
通信運搬費	500,000	482,003	17,997	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	
功労者表彰立金	50,000	50,000	0	平成31年度実施予定
事務局費	1,760,000	1,143,642	616,358	
役員報酬	360,000	360,000	0	常任副会長
賃金	800,000	460,800	339,200	給料等
備品費	150,000	0	150,000	パソコン等
消耗品費	30,000	13,725	16,275	事務用品等
光熱水費	100,000	79,312	20,688	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	173,753	26,247	インターネット接続料、 切手・ハガキ等
賃借料	60,000	56,052	3,948	会館建物使用料
慶弔費	60,000	0	60,000	祝電、弔電・生花等
会館修繕費	0	0	0	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	100,000	73,694	26,306	
繰出金	3,550,000	550,000	3,000,000	
名簿特別会計へ	550,000	550,000	0	名簿特別会計へ
進取の精神寄付金	3,000,000	0	3,000,000	進取の精神寄付金 ^(注)
予備費	962,112	0	962,112	
合計	9,000,112	4,092,201	4,907,911	

注) 進取の精神寄附金は、平成29年度において300万円とし、一括で寄付行為を行う。
(内訳) 1) 150万円は、一般会計からの繰り出し。2) 150万円は、基金特別会計から借用することとする。
ただし、翌年度から年次計画で、基金特別会計に返却することとする。年次計画については今後検討する。

平成29年度同窓会名簿特別会計収支予算書

収入額 2,073,068円 支出額 2,073,068円

収入の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	6	44	利子
繰越金	1,523,018	1,021,612	501,406	
繰入金	550,000	550,000	0	一般会計より
合計	2,073,068	1,571,618	501,450	

支出の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿作成費	810,000	48,600	761,400	
名簿購入費	750,000	0	750,000	卒業生配布用CD 500円 × (1,500個)
印刷費	60,000	48,600	11,400	卒業生名簿 500部
通信運搬費	1,000	0	1,000	
個人情報 業務委託費	0	0	0	
予備費	1,262,068	0	1,262,068	
合計	2,073,068	48,600	2,024,468	

平成29年度功労者表彰特別会計収支予算書

収入額 327,436円 支出額 327,436円

収入の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
繰越金	277,416	227,414	50,002	
繰入金	50,000	50,000	0	平成29年度積立金
雑収入	20	2	18	利子
合計	327,436	277,416	50,020	

支出の部

項 目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	327,436	0	327,436	
合計	327,436	0	327,436	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認めた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第2章 会 員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿児島高等農林学校卒業者
- 鹿児島農林専門学校卒業者
- 鹿児島大学農学部卒業者
- 鹿児島大学大学院農学研究科修了者

学生会員

農学部及び大学院農学研究科に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に移動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第3章 役 員 等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 常任副会長 | 1名 |
| (3) 副会長 | 3名 |
| (4) 評議員 | 若干名 |
| (5) 監事 | 3名 |
| (6) 常任幹事及び幹事 | 若干名 |
| (7) その他会長が認めた者 | |

(役員を選任)

第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

2 評議員は、前項の他に各地域支部支部長、農学部副学部長及び学科長、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

3 幹事は、農学部の各講座から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 監事は会計の執行状況の監査を行う。

6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員任期)

第9条 総会で選任された役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長は会長が委嘱する。
- 3 農学部長は本会の顧問とする。
- 4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会 議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員の選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。

4 総会の議長は出席者の中から選出する。

5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

2 臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長及び評議員をもって組織する。

2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
- (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第5章 会 計

(経費)

第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

第18条 監事は、会計年度ごとの事業実績並びに会計の執行について監査を行い、その結果を会長に報告する。

第6章 事 務 局 等

第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

覚 書

1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

編集後記

昨年の秋以降、同窓生とお会いすると、「大学祭のみこしパレードは今年(2017年)が最後だそうですね」から始まる会話になることがよくありました。鹿大の卒業生にとって、あの鹿大祭の「みこしパレード」は思い出深いものだったんだなと実感しました。私が学生だった頃(昭和50年代です)鹿大祭の「みこしパレード」は、一大デモンストレーションの場だったと思います。各サークルだけでなく、いろいろな学部の学科でもみこしを作りパレードに参加していました。鹿大祭の2～3週間前から製作にかかり、竹を削って組み合わせて骨組みを作り、それに新聞紙を張って形を作り、模造紙をかぶせて色を塗って仕上げました。サークルや学科の象徴、漫画の主人公、社会風刺などいろいろな題材でハリボテを作り、出来上がったものを担いで西駅(現在の鹿児島中央駅)前や天文館を練り歩き、それなりに市民の皆さんも楽しんでいたようです。

しかし時代は移り、最近のみこし作りに時間と手間をかける学生はほとんどいなくなっていました。教員も多忙化し、学生にみこしパレードをさせる余裕がなくなり、両者の意見が一致して「みこしパレード廃止」となったようです。世の中の移り変わりの反映なのかもしれませんが、ちょっと残念です。

(文責 食料生命科学科 樗木直也)

鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail(aratakai@mc2.seikyo.ne.jp)

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00～16:00)

印刷所	株式会社鹿児島新生社印刷
住所	鹿児島市七ツ島1-1-1
TEL	099-261-0111
FAX	099-261-3100
E-mail	kagoshima@shinsei-p.co.jp



鹿児島市立病院からみた農学部